(公社)長崎県理学療法士協会 広報誌

発　　行　公益社団法人　長崎県理学療法士協会
〒850-0874 長崎市魚の町1番23号フォーレ長崎203号
E-mail: nptajimukyoku@gmail.com
発行責任者　大山　盛樹
編　　集　西　啓太
印　　刷　株式会社　インテックス

ぴーかんてらす

P-can Terrace

09
【通算126号】

PT
Physical Therapist

効率の良い機能回復を目指して――

p2 ぴーかん特集1／神経系分野の専門領域

Contents

p04 特集2　女性理事に聞く! 女性の活躍について
p06 健康テラス／よく噛んで食べる
p07 「マネジメント」ってなあに?
p08 記念! 第30回理学療法学術大会
p10 知っトク(得)!「ロコモティブシンドローム」
p12 これからの理学療法士は…

神経系分野の理学療法士としての関わり

今回の特集は、脳血管疾患や神経難病などの専門領域の理学療法を紹介したいと思います。脳卒中の理学療法に電気刺激や電動刺激、歩行支援ロボットなどを活用し効果的な機能回復の促進を先駆的に取り組んでいる長崎北病院の理学療法士に話を伺いました！

促通反復療法について

脳卒中になると手足が麻痺し、上手く動かせなくなる症状を呈します。促通反復療法とは、促通手技によって手足の動きを実現し、それを反復することによって上肢・手指・下肢・体幹の運動を実現するために必要な神経路を再建・強化し、手足の動きの回復を促します。促通反復療法は川平教授が開発された手技で、多くの理学療法士が研修を受け治療場面で活用されている手段の一つです。脳科学の研究（NIRS：脳血流の変化）により、促通反復療法は脳の神経回路の再建・強化を促進し、効率的に機能回復を進めることが証明されています。

川平氏本人による促通手技の指導

HALについて

脳・神経疾患の専門的な治療と並行し、最先端機器やロボットを用いた先進的なリハビリテーションが提供されることがあります。当院で2010年より導入したHybrid assisted limb®（HAL）もその一つで、装着者の意図を読み取り、起立／歩行などを支援するロボットです。2014年にはHAL®医療用下肢タイプが厚生労働省より医療機器として承認され、2016年10月に当院にも導入されました。

HAL®医療用下肢タイプによる治療処置については、医療保険の適応が下記の8疾患に限られています。

対象となる8疾患

1. 脊髄性筋萎縮症
2. 球脊髄性筋萎縮症
3. 筋萎縮性側索硬化症
4. シャルコーマリートゥース病
5. 遠位型ミオパチー
6. 封入体筋炎
7. 先天性ミオパチー
8. 筋ジストロフィー

笑顔で装置（HAL）を操作する笹原氏

HAL

歩行神経筋電気刺激装置（ウォークエイド®）について

「脳卒中治療ガイドライン2015」においても推奨されるレベルの治療法として掲載されており、筋再教育、廃用性萎縮の防止・抑制、関節可動域の維持・増加、局所血流量の増加により、歩行能力の向上を目指します。

ウォークエイド

神経難病患者への関わり

パーキンソン病体操

パーキンソン病の治療は薬物療法が基本ですが、併せてリハビリテーションを行うことが身体機能や日常生活動作能力の維持、向上に有効とされており、私たちも運動を推奨しています。しかし、対象者の方からは『何をすれば良いのか分からない』『家ではなかなかできない』『一応運動をしているが、これで良いのか不安』などの声をよくいただきます。

そこで当院では、身体機能の維持に効果的な運動を「自宅で」、楽しく続けていただきたいとの思いから体操を作りました。体操の内容は一般的にパーキンソン病に効果的とされる様々な運動にオリジナルで考えた運動を加えたものを取り入れています。入院中にもリハビリ中や病棟で実施している他、退院後も継続できるように対象者にパンフレット等を配布しています。また当院のホームページからも無料でダウンロードできるようにしています。

パーキンソン病体操（長崎北病院）

短期集中入院コース

（SIRep-PD:Short-term Intensive Rehabilitation Program for PD）

当院の取り組みの一つとして、身体評価を含めた運動中心の入院を約3週間行い、個別に応じて身体機能や動作能力の向上を図ります。これまでに姿勢の改善やバランスの改善が見られています。退院した後も身体状態を維持できるように、自宅で継続して運動できるプログラムを提案します。

短期集中入院コースの理学療法場面

専門領域の理学療法士としての当院での関わり

理学療法士の生涯学習制度により、専門的な知識や技術を取得した理学療法士として一緒に働く後輩の育成にも力を注いでいます。当院では各病棟に理学療法士の管理者が配置されており、対象者に適切な治療手段を提供できるように後輩の理学療法士へのフォロー体制をとっています。装具の作製、治療手段の選択、促通反復療法の技術指導などOJT（On-the-Job Training）を取り入れ、実際の現場で若い理学療法士の育成を行いながら、より高いレベルの理学療法を対象者に提供できるよう心がけています。

また、後輩の理学療法士たちで専門領域を高めたい意識のある人たちには、学習に対するアドバイスなども行っています。日本理学療法士協会の生涯学習システムにおける専門・認定理学療法士取得に向けた個別の相談など行っています。より専門性の高い知識と技術を持った理学療法士が増えて、より多くの地域で、たくさんの県民の皆様のお役に立てるようこれからも努力したいと思います。

長崎北病院　笹原順哉 氏
長崎県理学療法士協会　理事
専門理学療法士（神経）
認定理学療法士（臨床教育）

ぴーかん特集

新 協会女性理事にインタビュー

現在、日本社会ではダイバーシティ（多様性）推進が謳われており、特に男女格差の解消が国家の成長戦略として課題となっています。

そこで今回は、新たに就任された長崎県理学療法士協会の女性理事に「女性理学療法士の活躍促進」をテーマにお話をうかがいました。

長崎県理学療法士協会　理事
池田　章子　氏

池田理事の協会でのお仕事について教えてください。

平成30年度から新しく設置された教育学術局の専門領域部を担当させていただいております。より多くの専門領域で活躍している理学療法士を協会内の会員の人材育成にも参画していただけるように協力を得て、ネットワーク作りができればよいと考えています。今年度は新部署での活動をどのように進めていくのか担当スタッフと試行錯誤を重ね、次年度からは具体的に始動していく予定です。

新理事として協会のお仕事を経験した感想を教えてください。

医療機関などでの日常の理学療法士の業務とは違う部分も多く、経験、勉強不足を感じることも多いですが、自分にできるところは可能な限り協力したいと思って活動しています。協会活動を通して、県内外の理学療法士（以下、PT）と交流が図れることは多くの出会いがあり、教えてもらうことも多く、大変ありがたいことだと感じています。ただ、協会の活動は、ハードなところも多く、女性（特にママPT）にとってはやはり厳しい活動であると思います。

池田理事から見た理学療法士の女性活躍推進の現状について感じていることを教えてください。

以前に比べると、男女差は少なくなってきていると思います。平成30年度の診療報酬改定においてもリハ専門職の常勤要件の取り扱いなどについて女性PTをサポートする制度変更が行われました（左図）。パートタイマーなどの非正規雇用や、時短勤務なども制度上では後押ししてくれているのではないかと感じます。しかし、現実的にはライフイベントに応じて働き方やペース配分を考える機会は多くあり、就業継続の困難さや両立の大変さはあると思っています。

平成30年診療報酬改定
（医師等の従事者の常勤配置に関する要件の緩和）

リハビリテーションに係るリハビリ専門職及び看護師については、**週3日以上かつ週24時間以上の勤務**を行っている**複数の非常勤職員**を組み合わせた常勤換算でも配置可能とする。

▼

常勤要件の緩和を図ることで、フルタイム勤務できない有資格者を積極的に雇用できる。

キャリアアップとライフイベントのワークライフバランス

女性においては出産・育児といった機会にキャリアが停滞してしまうことが懸念されますが、この点についてどう思いますか。

女性が資格を持ち、社会的に認められるようになった現代においても、女性が仕事を続けていくことは、容易ではないと思います。昔に比べれば周囲の理解が増えてはいますが、仕事やキャリアアップとライフイベントとの「ワークライフバランス」がとれている女性PTはまだまだ少ないように感じます。私の場合は、結婚・出産・育児と仕事を両立できたことは、自らの理学療法士としてキャリアアップに対する強い信念と、やはり家族や職場の理解に支えられたからであると感謝しています。産休・育休中であってもいかにPTとしてのモチベーションをキープできるかが重要であると思います。「キャリアの停滞」という面からサポートするとすれば、女性理学療法士の研修会など企画して、いろんな意見を聞く場を持つのもよいのでは、と考えています。

池田理事は現場では部署の管理職としてもご活躍されていますが、今後PTがさらに女性も活躍できる専門職となっていくためにはどのような取り組みが必要と考えますか。

管理職とは名ばかりで私は「超プレイイングマネージャー」で動いているので私のような働き方はお勧めできません（笑）。女性が活躍できる専門職となるためには、日本理学療法士協会の生涯学習システムに定められる認定や専門PTの取得を目指す努力は必要と考えます。ママになってから簡単に取得できるわけでも無く、資格を維持することも悩ましい課題ですが、わかりやすく自信を持てるためにも「その努力」は無駄ではないと思います。そして、「キャリアのドア」が開いた時にはためらわず踏み込んでみるのも大事と思っています。長崎県理学療法士協会としては、県内で認定・専門PTのポイントをとれる研修会を企画していくことが、女性に限らず会員の皆様にとって負担軽減になるのではと考えています。そして、女性の強みといわれている「協調性・共感性・優しさ・気配り」などを生かし、女性だからこその良さを臨床に活かせれば良いのではないかと感じています。

「協調性・共感性・優しさ・気配り」といった女性の強みを生かし、充実したリハビリテーションを提供

制度的な面で個人的に考えていることは、教職の方にあるような臨時採用制度があると職場的にも不利益が生じず、復帰もしやすいのではないかと思っています。産休・育休中は職場にとっては欠員の状態で他の職員に負担がかかることを心苦しく思っている女性PTはかなり多いのではないかなと思います。ただ、それを行うには、臨時採用のような非正規雇用で働ける理学療法士を確保する人材登録機能（人材バンク）などの整備、充実など多くの課題もあり、簡単ではなく難しい話かとは思いますが…。

最後に県民の皆様と長崎県理学療法士協会会員に向けてそれぞれメッセージをお願いします。

リハビリテーションが適応される分野は、老若男女、小児、スポーツ、予防など多岐にわたり、現代のダイバーシティーマネジメントの観点からも男女の理学療法士がいるからこそ、充実したリハビリテーションを提供できると思います。

今後とも、頑張っている女性理学療法士（特にママPT）を応援していただけると嬉しいです。

池田　章子
専門理学療法士（運動器）
国際マッケンジー法認定資格
日本骨粗鬆症学会骨粗鬆症マネージャー

平成2年3月	長崎大学医療技術短期大学部理学療法学科を卒業後三菱重工業株式会社長崎造船所病院（現：重工記念長崎病院）に就職
平成16年5月～	腰痛専門外来「腰痛クリニック」開設
平成18年11月	国際マッケンジー法認定資格取得後、「マッケンジー法を用いた評価と治療」について講義等多数
平成27年4月～	重工記念長崎病院　リハビリテーション科技士長
平成30年4月～	長崎県理学療法士協会理事

MANAGEMENT?

「マネジメント」ってなあに？

最近「マネジメント」という言葉がよく使われるようになりました。広辞苑では、企業や組織、個人を管理･指導することと記されています。数年前には経営学者のドラッガー氏が著した本を元に、「もしドラ」という小説や映画が話題になりましたね。ビジネスの世界ではマネジメントの考えが広く浸透しており、部下をどのようにマネジメントするか苦労されている方も多いと思います。

我々、理学療法士の中でも「理学療法マネジメント」をテーマに研修会が開催されており、その関心は高くなってきています。今回は、理学療法マネジメントというのは一体どのようなものかご紹介します。

「EPDCAサイクル」という考え方

先ほども述べた通り、マネジメントとは管理･指導することが主体となっています。では、理学療法マネジメントとは誰を対象としているのでしょうか。マネジメントの対象となるのは、患者様と理学療法士になります。この2者を対象に、効率良く効果的に個人の回復や成長を促すことを目的としています。

その中で、質の高い理学療法を提供するため、「ⒺⓅⒹⒸⒶサイクル」という考え方が提唱されています。あまり馴染みのない言葉だと思いますが、この考えこそ、理学療法の質を高め、患者様によりよいリハビリテーションを提供する核となります。Ⓔ=最初の評価、Ⓟ=リハビリの内容や目標の設定、Ⓓ=リハビリの実行、Ⓒ=実行後の再評価、Ⓐ=再評価を基にして実行内容の変更、という流れになります。この考えは、昔から理学療法士が実践しています。

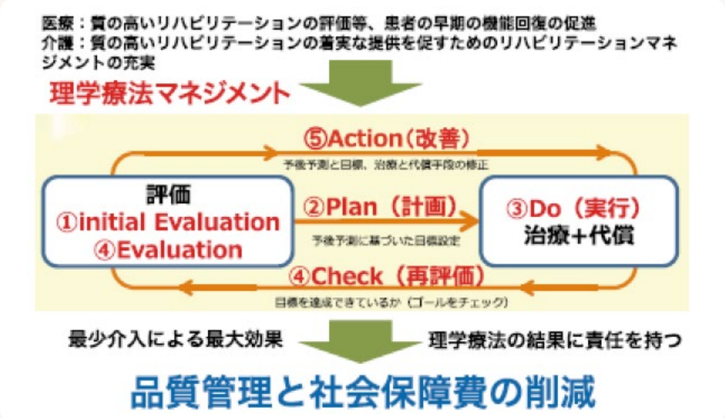


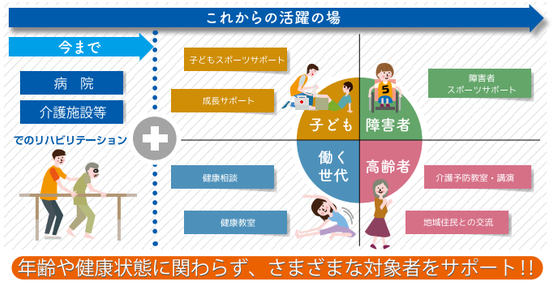
図. EPDCAサイクルについて（JPTA NEWS No.303,p14 より一部抜粋）

自らの成長をマネジメント

また、理学療法士が自身の成長を促すためのマネジメントを実行する必要があります。質の高い理学療法の提供を実現させることを目標にして学習を続けています。その意識付けを行うのは管理者の役割となっています。私たち理学療法士は、養成校での教育から、卒後の新人教育、専門性を持つための教育、管理･運営に関わる教育など、時代にあったシステムで成長を続けています!

参考資料
・JPTA NEWS No.302-305.
・リクルートマネジメントスクール, ホームページより,マネジメントとは何か？

「地域社会から求められる理学療法士」を育成しています。



学校法人　岩永学園
こころ医療福祉専門学校

▶理学療法科 ■長崎校
▶介護福祉科 ■長崎校 ■壱岐校
▶スポーツ柔整科 ■長崎校 ■佐世保校
▶スポーツ鍼灸科 ■長崎校

■長崎校
0120-100-770
〒850-0048 長崎県長崎市上銭座町11番8号

■佐世保校
0120-935-756
〒857-0051 長崎県佐世保市浜田町1番22号

■壱岐校
☎ 0920-43-8556
〒811-5544 長崎県壱岐市勝本町布気触818番地68

健康テラス

よく噛んで食べる

幼い時に、「よく噛んで食べなさい」と母親によく言われたものです。よく噛んで食べないと食べ物を詰まらせてしまうためです。食物を飲み込みやすい大きさまで噛んでから飲み込むことは、ムセないようにするためにとても重要なことです。

最近では、「よく噛む」ことは、体にとって良い効果をもたらせてくれることが報告されています。

学校食事研究会や8020推進財団が、「**ひ・み・こ・の・は・が・い・ぜ**」と標語を出しています。よく噛むことにより①**肥満の予防**、②**味覚の発達の手助け**、③**言葉が聞き取りやすくなる**、④**脳の発達を促す**、⑤**虫歯などの歯の病気の予防**、⑥**がんの予防**、⑦**胃腸の働きを助ける**、⑧**全身の体力向上**、などが謳われています。

また、よく噛んで歯の健康を保つことは、**転倒しにくい体にもなる**と報告されています。転倒せず体のバランスを保つには、歯の本数や噛む力が関係しており、歯の本数が少ない人（19本以下）は、歯の本数を保っている人に比べ、転ぶ可能性が2.5倍にもなってしまうとの調査もあります。

何回噛めばいいのか?という疑問があります。日本咀嚼学会は、「30回」という回数を示しています。しかし、30回も噛んだら時間がかかりすぎる、最後の方は味がしなくなるなど楽しいはずの食事を楽しめなくなるかもしれず、また、軟らかい食べ物は30回も噛む必要はありません。学会の発信として、30回噛むことはあくまで目安として、意識としてはよく噛むことを推奨しています。

たくさん噛んで健康な体を作りましょう。

参考資料
・8020推進財団 ホームページより一部抜粋
・山本龍生：歯科から考える転倒予防, 日本転倒予防学会誌 Vol.5 No.1, 23-25, 2018.
・日本咀嚼学会：日本咀嚼学会からの発信（1）

第30回 長崎県理学療法学術大会

看脚下 新時代の理学療法展開に向けて

日時：2019年1月19日(土)･20日(日)
場所：長崎大学医学部・記念講堂・良順会館・ポンペ会館
大会長：塩塚順

平成31年1月19日（土）20日（日）の2日間、長崎大学医学部記念講堂、良順会館、ポンペ会館にて第30回長崎県理学療法学術大会を開催しました。

長崎県理学療法学術大会も今回で第30回を迎え節目の年になります。この30年間で理学療法学も飛躍的な進歩をとげ、運動器、脳血管、心大血管、呼吸など疾患別リハも神経系、切断、スポーツ、地域、予防、教育などを含めた各専門領域の分化も進んでおります。しかし、その一方で少子高齢化の急速な進行に伴う地域包括ケアの推進により、社会が私たち理学療法士に求めるスキルもある一つの疾患に偏ったものではなく、幅広い知識と技術になってきている現状もあります。このように我々を取り巻く環境は大きく変化しており、新しい時代に沿った理学療法展開が求められています。そこで、今回の学術大会のテーマは、「看脚下～新時代の理学療法展開に向けて～」といたしました。看脚下とは、禅の世界の言葉で、「脚下を看よ＝足もとを見よ」という意味になります。私自身、『「現実」を見据えて、まさに足もとから着実に一歩ずつ前に進んでいくことが最も重要だ』という意味だと解釈しています。本学術大会では、我々理学療法士の現状を整理し、新時代に即した理学療法展開について考える機会になったものと思います。

日韓シンポジウム開催

理学療法士の卒後教育について、日韓の現状と今後の展望をお話し頂きました。日本理学療法士協会理事の田中昌史氏、長崎大学の井口茂氏、大韓物理治療士協会のヨ ボクギ氏にご登壇頂きました。ご講演後は今後の卒後教育においてスペシャリストとジェネラリスト、どの方向に進むべきなのかなど活発な議論が展開されました。

意見交換をするシンポジスト
（左から田中氏、井口氏、ヨ氏）

口述演題発表

本学会では2日間で80演題もの発表がありました。一般演題・新人演題が4会場に分かれて行われ、各会場で熱いディスカッションが展開されました。

各会場の発表者と会員

第1日目

開会式

開会式は、山下準備委員長の開会宣言、塩塚大会長の開会挨拶、大山会長の挨拶に始まり、県知事や長崎市長、長崎県医師会の方々からお祝いと激励のお言葉を頂き身の引き締まる思いがいたしました。

開会式の様子

長崎県理学療法士協会大山会長

開会式後、最初の講演は塩塚大会長による基調講演でした。
糖尿病のリハビリテーション「今昔物語」と題し、糖尿病運動療法のこれまでの歴史と、これからの新時代に求められる理学療法士の役割について提言して頂きました。

第2日目

特別講演1

長崎大学の神津玲氏に、『慢性呼吸障害のリハビリテーションにおける新たな展開』について講演頂きました。超高齢社会における、呼吸器疾患の理解の重要性等の背景について説明頂き、基礎から臨床展開、そして予防に至る呼吸リハビリテーションの現状と今後の課題について理解を深めることができました。会場はほぼ満席でサテライト会場も設置致しました。

特別講演講師の神津教授

サテライト会場を開放（良順会館）

県民公開講座

長崎大学病院の高畠英昭氏に、『最近のリハビリテーションと長崎のリハビリ事情』について講演頂きました。磁気･電気刺激、再生医療を用いた脳卒中への新しいアプローチの紹介やリハビリ医の不足に関する現状の課題等について、わかりやすく、楽しくご説明頂きました。県民（会員も含む）の皆様にとって、有意義な時間になったと思います。

県民公開講座講師の高畠医師

特別講演2

長崎大学の沖田実氏に、『運動器慢性疼痛に対する新たな理学療法展開』について講演頂きました。慢性疼痛に関する日本国内や長崎県の現状と課題についてご説明頂き、リハビリ専門職を中心とした慢性疼痛診療体制の構築を進めていくことの重要性を教えて頂きました。改めて患者様の痛みに関する情報をどのように“連携”し、どのような情報を“共有”すべきなのか、考える機会となりました。また、慢性疼痛を予防する戦略についても基礎データから臨床の介入データまで丁寧に教えて頂きました。

特別講演講師の沖田教授

優秀者表彰

全80演題の中から奨励賞（3題）が選出され、新人発表24演題の中から協会長賞（1題）、一般発表56演題の中から大会長賞（1題）が以下のように選ばれました。

奨 励 賞　山口滉大　高尾奏二朗　田口詩織
協会長賞　百合野大輝
大会長賞　石井　瞬
（順不同、敬称略）

受賞された発表者の皆さまおめでとうございます

閉　　会

2日間にわたる第30回長崎県理学療法学術大会は、山下準備委員長の閉会宣言のもと無事閉会することができました。最終的な会員の参加数は、過去最高の460名でした!オール長崎で固めた超強力な講師陣と会員の学習意欲の高さが実を結んだものと考えます。

改めて、お忙しい中快く講師を引き受けて下さった先生方、座長や発表者の皆様、参加して下さった会員及び県民の皆様に厚く御礼申し上げます。

閉会挨拶をする
山下準備委員長

大会運営スタッフ一同

「健康バンザイ！がんばらんば　キャンペーン」の事業参加

長崎県では、県内の医療保健機関、学術機関、行政機関が連携し健康への関心を高めるために「健康バンザイ!がんばらんばキャンペーン」を毎年開催しています。長崎県理学療法士協会の長崎地区では平成27年度から毎年このキャンペーンに参画し、訪れた市民に健康への関心を高めるきっかけを提供しています!

ロコモ度テストってなあに？

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）かどうかをチェックする方法です。以下の3つのテストで判定します。

Ⅰ.立ち上りテスト

40cm～20cmの高さの台から、両脚または片脚で立ち上がり、立った状態をそのまま保持することが出来るかをチェックします。

ロコモ度1 どちらか一方の片脚で40cmの高さから立ち上がれない

ロコモ度2 両足で20cmの高さから立ち上がれない

Ⅱ.2ステップテスト

2歩分の歩幅を計測し計算します。

計算式
2歩幅 (cm) ÷ 身長 (cm) ＝ 2ステップ値

ロコモ度1
2ステップ値が1.3未満

ロコモ度2
2ステップ値が1.1未満

Ⅲ.ロコモ25

25の質問項目に答えていきます。

ロコモ度1 7点以上

ロコモ度2 16点以上

ロコモ度1とは
移動機能の低下が始まっている状態

ロコモ度2とは
移動機能の低下が進行している状態

ちびっ子もステップ！

ガンバ君もステップ！

皆さんもチェックしてみてはいかがでしょうか？

参考元：日本整形外科学会公式ロコモティブシンドローム予防啓発公式サイト

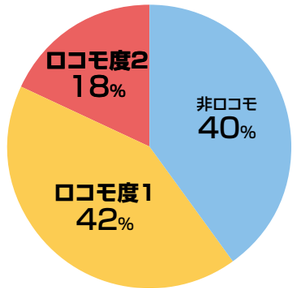
※ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは、骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、「立つ」「歩く」といった機能（移動機能）が低下している状態のこと

日時：平成30年9月29日　場所：ベルナード観光通り
参加者：30～90歳代の一般市民71名（男性9名、女性62名）

実施内容
①ロコモ度テスト　②握力測定　③健康相談　④アンケート

参加者の結果

①ロコモ度テスト（71名）



立ち上がりテスト、
2ステップテストのみ実施。

②握力測定

	右手平均	左手平均
女性	23.9Kg	21.8Kg
男性	38.8Kg	36.1Kg

④アンケート

●外出頻度
・ほぼ毎日：48名（67.9%）
・3～5回/週:19名（26.8%）
・1～2回/週：4名（5.6%）

●外出時階段を上り下りすることができるか　等
・何にも頼らずに上り下りできる…45名（63.4%）
・何かにつかまったり杖などを使用しないと難しい…25名（35.2%）

長与町での賑わい

浜の町アーケードでも熱心に活動

結果を丁寧に説明します

ちびっ子も握力テスト～（笑）

意外と元気に買い物や外出している皆様にも「ロコモの危機」は迫ってる？？
やっぱり、健康には日ごろの『関心』と『対策』が必要かもですね！！

ロコモ度診断結果から、希望者にはパンフレットの配布や情報の紹介により運動習慣の改善を促すアドバイスを行っています。また、必要に応じて、より具体的な運動指導や助言ができる機会も多く設けさせていただいております。今後も県や市の健康･介護に関する事業への参画を通して理学療法士として地域の特性に応じた具体的な住民教育へ繋がるよう活動を継続していきます。市民の皆様にもこのようなキャンペーンへ参加していただき健康への関心を高めていってほしいと思います!!また、この活動を通して地域に向けた長崎県理学療法士協会のことを知っていただく機会にもなれたら嬉しいです。

個別にアドバイスも行います！

人の希望をささえるひとになる。

PT 理学療法学科一部（昼間部）
ST 言語療法学科
PT 理学療法学科二部（単位制夜間部）
OT 作業療法学科

学校法人向陽学園
長崎リハビリテーション学院
〒856-0048 長崎県大村市赤佐古町 42 番地
フリーダイヤル 0120-635-636
長崎リハ学院 検索

笑顔を増やす　医療を学ぶ

PT 「身体の動き」を向上させるリハビリテーション 理学療法学科 Physical Therapist Course
OT 「こころ」と「からだ」のリハビリテーション 作業療法学科 Occupational Therapist Course

長崎医療技術専門学校 NAGASAKI MEDICAL COLLEGE
学校見学会　随時受付中!
〒850-0822 長崎市愛宕1丁目36-59 TEL. 095-827-8868 FAX. 095-827-8335

国民の生活を守る価値ある活動を！
～これからの理学療法士に求められるもの～

第30回長崎県理学療法学術大会シンポジウム（H31/1/19）
協会指定管理者研修会in佐世保（H30/10/15）

日本理学療法士協会　理事
田中昌史氏

熱く語りかける田中昌史氏

田中氏と本会役員や学術大会大会スタッフ

日本理学療法士協会理事の田中昌史氏より、私たち長崎県で働く理学療法士に向けて力強いメッセージを頂きました。

●超高齢社会のなかで理学療法士の専門性の確立！

●地域包括ケアシステムの構築への協力と地域分化を意識した活躍！

●理学療法士の人材育成の更なる強化！

日本理学療法士協会は、これからの社会情勢に柔軟に対応できる「人材の育成」を目標に掲げ、現行システムの見直しを粛々と進めています。
近年では、急性期･回復期･生活期などリハビリテーション領域の機能分化が進んでいます。診療科においても脳神経系、整形外科系、呼吸器系などの疾患に対する専門性の特化も深みを増してきています。
また、地域包括ケアシステム構築の進展に伴い、理学療法士の働く場所は医療中心から地域や住宅など、引いては介護や予防へと拡大しています。
専門領域に主眼を置く「スペシャリスト」の育成に加えて、地域の中の多様な「期待に」幅広く対応できる「ジェネラリスト」の育成も拡大していきます。

県民の皆さまの「期待」が、私たちの『課題』や『目標』になります。たくさんの皆様の声を私たち理学療法士に聞かせてください！

編集後記

長崎の力を感じた。

今回の特集は新しく理事に就任した2名に協力いただきました。それぞれに臨床力を感じ、本協会を導く熱意が感じられる編集となりました。

大きなトピックスは、第30回記念学術大会です。看脚下をテーマに、「オール長崎」の全国にも誇れる内容であったことは間違いありませんでした。孔子曰く「三十にして立つ（自信がつき自立できるようになる）」という言葉があります。本当に30回記念の節目に相応しい「長崎の力」を感じる編集担当者冥利に尽きる内容をお届けできたと思います。

読者のみなさま
「ぴーかんてらす」へ情報を
お寄せください!!

「理学療法士協会 広報誌」リニューアルに伴い、理学療法士や市民のみなさまに向けたコーナーも充実させていきたいと考えています。

◎日常のうれしいできごと
◎日頃取り組んでいるリハビリにまつわること
◎私の○○自慢
…など、皆様からのさまざまなお便りをドシドシお寄せ下さい!!

お便りの送り先　〒851-0103　長崎市中里町96番地
和仁会病院（担当：大石）FAX／095-837-1230　メール／nptakouhou@gmail.com

ぴーかんてらすは、デジタルブックでもご覧になれます！

パソコンからのアクセス　ぴーかんてらす　理学　検索
http://www.nagasaki-ebooks.jp/

●nagasaki e-booksのサイトの右上の検索窓に「ぴーかんてらす」と入力するとデジタルブックページにジャンプします！
●携帯・スマートフォンからのアクセスは、右のQRコードから!!